

アンケートから

ボランティア日本語教室は設立以来、参加する学習者の様子がどのように変わり、その対応はどのようにしているか。

この20年間で東京都の外国人登録者数は約2倍で、2012年には41万人となり、国際化が大きく進展しています。都内で活動するボランティア日本語教室は200を超え、言葉の支援、交流活動等を行っています。

世界の経済情勢や日本国内の生活環境の変化、特に昨年の3月11日東日本大震災と福島原発事故（以下大震災）で在日の外国人も大変不安な状況となり、多数の方々が安全を求めて帰国しました。

日本語学習支援活動にも思わぬ陰を落としています。

それから1年3か月が過ぎた現在、ボランティア日本語教室に来る学習者や活動の環境は、元に戻ったでしょうか。TNVN会員団体に設立以来、参加する学習者の様子とその対応について、

(2012年6月15日～7月25日) 正会員団体(63団体)にメールで問い合わせ、24団体(19区市)のご協力を得ました。それぞれのご回答は貴重な情報で、現状を共有する事が出来ます。

ニュースレター紙面にはご回答の概要を載せ、会員団体には全文を印刷物にし、別にお送りします。

設立時期

1979年に発足した団体から、1989～1999年の10団体、2000年以降7団体です。

学習者の様子

国別

東京都の外国人登録人口は多い順に、中国、韓国・北朝鮮、フィリピン、英国、インド、ネパール、タイと続いています。ボランティア日本語教室の学習者の出身国もほぼ同じ傾向となっています。

多くの教室で出身国の数は10カ国前後、活動年数の長い教室は30, 50, 70カ国からの人が参加し、大半が中国・韓国で占められています。

意見・感想

- …韓国・フィリピン・中国・タイ・インドの4カ国で87%
- …中国と韓国で90%
- …当初はイラン人も多かったが、西葛西という土地柄もあり、インド人が増えている。

大震災に関連して

意見・感想

- …当初(5カ国)、最高(23カ国)、2009以降(11カ国)、大震災前後では(11カ国から、12カ国へ)
- …設立時は5カ国、2009年は8カ国、大震災後から激減、現在は7カ国

◎参加人数からは

大震災の影響で参加者数が激減・半減したままの教室が多い(6)、一方ほぼ回復している(4)、また逆に増えている(1)教室があります。

意見・感想

[激減・半減]

- …増加傾向にあったが大震災・原発事故で一挙に減少。以前毎週出席者は20人程度であったが、現在は12人程度。
- …発足後数年は20人前後、08年のピーク時には60人。リーマンショックと大震災の影響で、現在は30人前後で推移。
- …設立時は5カ国9人、2006年から順次増加し2009年は8カ国43人、大震災後から激減、現在は7カ国16人

[回復]

- …20年度をピークに、漸減の傾向にある。世界的不況と円高の影響かと考えられる。23年度は大震災の影響をまともにうけ、今年5月にようやくピーク時の88～90%まで回復。
- …大震災直後、参加者は3分の1に減少、10月にはほぼ元の人数に戻る。
- …大震災以降、常時100人を上回った学習者は減少傾向にあったが、最近徐々

に回復。韓国・インドの学習者の減少が顕著。

[増加]

…学習者90人(16カ国) 震災後学習者116人(22カ国)と逆転

性別・年齢では

意見・感想

…日本人と結婚した夫人、駐在員夫人が90%以上、2002年からはインド夫人が増える傾向だったが現在は1人
…当初は国際結婚の主婦が90%。2000年代に入り、中国帰国子女、就学生が増加。学習者が小学生と交換学習を行い、国際理解学習に協力。
…当初主婦が多かったが、その後留学生

や会社員なども参加し、現在は女性66%、男性34%

…男性:65%、女性:35% 年齢:18~40歳位

…男女同数。年齢層は20代30代中心。時間、会場の立地か子供連れはほとんどいない。

…水曜の夜、日中働いている人が多い。若い人が多い。

在日理由・目的

●日本人を配偶者とする外国人 ●駐在社員の配偶者・子ども ●就業ビザ保有者(会社勤務・飲食業従事・自営業など)、ビジネス仕事(出張含む) ●大学・大学院の留学生・交換教授・研究生、およびその配

偶者 ●日本語学校生、ワーキングホリデー来日

そして学習の目的・希望は多様化、(コミュニケーション力、仕事で必要、漢字習得、日本事情)

その他

意見・感想

…大震災以降、短期出張者が増えた。
…日中働いている人が多い、職場環境が厳しく残業等で7時からの出席が難しいとも聞く。夜の教室は、経済が微妙に影響している。
…日本で就職を希望するよりは母国に戻る人が大多数

学習者への対応

クラスの増減

設立後からクラスを増やす

意見・感想

…水曜日1クラスでスタート(1998年)、翌年に水曜日3クラス、5年後金曜日1クラスを増やし4クラス
…当初1ヶ所から4ヶ所7教室
…1998年:開設(1教室、平日夜間)、2006年:2教室増設(平日午前、土曜午前)、2009年:ボランティアが自主的に開設・運営する日本語教室への支援開始
…当初金曜午後・夜の2教室、1997年から月曜AM/PM、水曜PM、金曜PM/夜間の週5回
…公民館でスタート、現在大学交流プラザが加わり2ヶ所、両方とも毎週水曜日夜

◎一方で

…年度季節による大幅な人数の増減はないためクラスの増設およびハード面の変更等もなし。
…週日の午前中と夜のクラス。学習者も支援者も安定。午前クラスに比べ、夜のクラスに参加する人たち(学習者、支援者とも)の継続性なし。大震災以後、特にひどく感じる。

会場の確保

区市の公的施設を使用している教室が多

数。そのうち抽選(3)、事前確保(9)。区によっては活動費の半額支援を受けている。

意見・感想

…設立時から3カ月前申し込み、抽選式で全く変わらない。
…近年は会場に利用している区の施設が有料化され、抽選になった為、維持費や会場の確保が、難しくなっている。
…無料~安い学習会場が確保できることは、私達の活動の基本です。各自治体には、財政状況の厳しい時ではあります。特段の配慮をお願いします。
…活動場所の職員が私たちの活動に関心を持ってくれるようになったのは、区が施設の管理を外部委託するようになったおかげでしょうか。

支援の方法

意見・感想

…原則マンツーマン(一対一の対応)の対応が多い。
…当日の状況に応じて複数対応あり。学習者の学習目的に合った学習方法、支援方法をとっている。
…学習者の日本語レベルや当日の参加人数に応じてマンツーマンから少人数グループで行う。

◎支援内容で

意見・感想

…日本語検定試験対策、生活に必要な日本語、仕事で使える日本語(敬語含

む)、学習支援

…日本語に加え、パソコン教室や学校教科の補習。土曜日の学習支援室には朝10時から午後6時まで様々な年齢の学習者・ボランティアが集まる。
…本会は「保育付き日本語」が特長だが、2011年以降、保育利用者が激減した。以前は常時8~10人が保育室を利用、常に待機児童がいた。現在、利用者は2人。

行事

行事は支援活動の中で欠かせない物となり、多彩です。

●日本の季節の行事 ●年末・年始の行事 ●日本文化の体験 ●防災訓練 ●日本語スピーチ大会 ●区や交流協会主催のイベントへ参加等…

意見・感想

…一年に一度イベントを開催していたが、最近ではランチ懇親会など、定期的な交流会にも力を入れている。
…変わったことは行事でしょうか。学習者の参加も少なくなり、授業をしたほうがいいのではということで、年4回ほどあった行事は1、2回に減りました。
…各クラスで学習者・支援者の茶話会等を適時行うほか、年2回全学習者・会員対象にパーティーを実施。その他スピーチ大会を催すなど学習者・会員相互の交流を図っています。

「わかる日本語」研究会に参加して —初めてのリライト経験—

寄稿

..... 東久留米にほんごクラス / 東久留米市

武貞明子

「わかる日本語」研究会で、東京都国際交流委員会ホームページの「外国人への生活ガイド」から、「緊急災害時の対応、転ばぬ先の知恵」という項目を取り上げ、生活情報を「わかる日本語」にリライトを開始したのは、2011年の5月でした。それから、1年4か月がたち、やっと私たちのリライトの経過を報告書として冊子にまとめることができました。時間がかかりました。そして、その間、日本語文を読むことや日本の生活に不慣れな外国人生活者にとっても「わかりやすい日本文」にリライトする難しさに悩み、迷い、揺れました。リライトをして感じたことを少し振り返ってみました。

● 「わかりやすい日本語のレベルは？」

リライトのレベルを決めるには、読む人(対象)と原文の目的・内容とを考慮する必要があります。また、その基準の設定もいろいろな方法があると思います。一般的に「やさしい日本語」として外国人向けに記述されているものは、日本語能力試験を基準にしてN4(初級終了程度)またはそれ以上を多少含むとしているものが多いようです。研究会では、どんな外国人生活者にも情報を伝えたい、情報弱者を出さないという思いから、リライトをさらにやさしいN5レベルに近づけるように努力しました。これは初めてリライトする私たちにとっては難しい挑戦でした。ただ、メンバーの多くが日本語ボランティアで、N5のレベルを把握していたので、最初から共通の土台に立つことができたのはやり易かったと思います。

● 「読み手」側に立ってリライトする

簡単になったリライト文を見て「書き手のおもいが全然伝わらない」「内容が減っている」「日本語が不自然だ」というご批判を受けます。私も実は同様に感じていた時期があります。でも、情報弱者といわれる方々の立場にたって、知りたいこと伝えたいことの方に焦点をあて、ストレートに表現するようにしました。日本語文には、読者に配慮した表現、いろいろな場合を包括する表現、前置きを書いて趣旨をのべるなど日本語のすばらしさを改めて感じる表

現が見られます。ところが、外国人にとっては、そのような表現がわかりにくさにつながっているようです。「わかる日本語」は、日本語が充分理解できない外国人にも生活情報が伝わることを目的にした限定された一伝達手段であると割り切って考えてはどうでしょうか。そう割り切ったからは、以前よりも楽にリライト作業に参加できるようになりました。

● 「生活に必要なことば」はとても多い

リライトをしていると、大人が、日本の制度や生活習慣のなかで、仕事をし、家庭を持ち、子育てをし、生活していくには、実に多くのそして難しい言葉が必要とすることがわかります。日本語能力試験のレベルや教科書に定められた語彙の枠にとらわれずに、外国人に理解してもらい、使ってもらいたい言葉はたくさんあります。リライト文はそのような言葉はそのまま使い、意味を書き添えました。難しい言葉が多い分、文を短く、構造をシンプルにするよう心がけてわかりやすくしました。最近、生活日本語に注目が寄せられています。日本語ボランティアも、今までの日本語教育とは異なる視点からの支援が求められています。

● 異文化に配慮を

現在、日本で生活する外国人の国籍数は、190にのぼります。リライトの特徴は、国籍、宗教、文化、生活習慣の違いにも配慮が必要なことです。そして、日本人にとってはあたりまえのことでも、外国人にはわかりにくいことには、説明や写真・イラストをそえることも大切です。

● 日本語ボランティアの役割

外国人の日本語レベルやニーズは様々です。「わかる日本語」にしたから大丈夫ということではありません。わからないことを説明してあげたり、リライト文と原文の狭間を埋めてあげたり、必要な情報を追加してあげたり、時には行動をともにしたりと、サポートすることが必要です。一人一人のニーズに寄り添いながら心に響くサポートが出来てこそやさしい日本語になるのではないのでしょうか。

会話力を向上させる 初級テキストの使い方— 2

東大島にほんご 宮田百合子

地域クラスの学習者の大半は会話力向上を期待して参加していますが、数回でやめてしまう学習者が多いのも現実なので、参加した日に「たくさん話せた」「何か学べた」と感じてもらえるような授業の工夫が必要です。又、初級後半からは日常場面の会話だけでなく、説明や描写力を養成して話題を保持し広げていく能力を養う必要があります。今回は初級テキスト「読み文」を利用した会話力の養成例を紹介しましょう。

使用例「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」より

このテキストでは、6課から「読む」ためのまとまった文が出てきます。6～25課、26～50課までの文を、下記の観点からリストアップしてみてください。

- ①テーマ⇒話題・何について書かれているか？
- ②文体⇒です・ます体？ ふつう体？ メモ？
- ③文の種類⇒説明文？ 手紙？ レシピ？ 物語？

使用例：「みんなの日本語Ⅰ」の9課と12課の読み文を使った「会話練習」の例です。(90分授業・教師・学習者2人)

9課本文 「山田さんとダンス」

山田さんはダンスが好きです。毎晩、ダンスの学校へ行きます。ダンスの先生はきれいな人です。山田さんはダンスが上手ではありません。きれいな先生に習いますから毎日楽しいです。先生の誕生日にコンサートのチケットをあげました。先生は友達と行きました。山田さんは残念です。

●本文の再生

二人の学習者に3～4分程度この文を読ませてから、本を閉じて内容を言ってもらう。

●情報のまとめ

二人で記憶を補い合いながら再現させ、教師はより自然で適切な言い方に補正します。

(口頭再生の例：「山田さんはダンスが好きですが、あまり上手ではありません。でも、ダンスの先生がきれいなので毎晩通っています…」)

●話題発展

教師は「山田さんは、なぜチケットをあげたんですか？」など、「多分～」「のに～」などの表現が出てくるような質問をします。さらに、「ダンス教室とは？」など、話題を広げることも可能で単純な文でも盛り上がります。

12課本文 「どこがいちばんいいですか」

私のうちの近くにスーパーが3つあります。「毎日屋」と「ABCストア」と「ジャパン」です。…以下、略

本文の再生と インフォメーション・ギャップの利用

3つのスーパー「毎日屋」と「ABCストア」と「ジャパン」を、それぞれ学習者2人と教師で分担して読み(3～5分)、各自覚えてから、テキストを閉じて互いに担当した店舗について、いい点や不便な点などなど…各お店の特色を報告し合ってください。この場合、各自が「違う情報」を持っていることがインフォメーション・ギャップです。(12課のように内容的に分担出来ない時は、長めの文を段落で分けて読ませる)

相手に伝える→聴く→話す

《会話の流れ》を成立させるためには、互いに共通の話題(相手に自分の情報を伝える)を持ち、異なった情報(相手の話を聴く)を持っていることが必要です。

上記例の場合、更に、学習者が利用している「スーパー」などについて話を広げて下さい。

初級テキストの「読み文」

各課の終了後より、先に進んでからの使用が効果的ですが、かなり話せる学習者にも「情報源・会話のきっかけ」として利用できます。特に「みんなの～Ⅱ」は話題も豊富、短文・初級文法の範囲内なので、数分で読み記憶し内容を再生しながら「話すこと」に繋げ、テキストを十分に活用して下さい。教師は会話に加わりつつ「発音的・文法的に正しく話す」よう、さりげなく指導することが大切です。

「？」はてなマークの国 キューバ

会 留美子 (やさしい日本語／江東区)

キューバについての予備知識も持たず、誘われるままに昨年初めて訪問。直前に知らされていたのは、社会主義体制の国家であること。そのため国民の平均月収は日本円に換算して2000円程度。日用品、食料品は配給であること…だった。確かに街中に商店は見当たらない。コンビニもファストフード店もない。それはどこか異様とも思えた。平均月収の低さのわりには、市販のミネラルウォーターの値段は日本とさほど変わらず、レストランでもそれなりの価格だ。多くの疑問を残し、興味を持った私は、帰国後すぐにインターネットで調べたが、情報は乏しく関連書籍もほとんどなかった。しかし幸運にも、その一年後の今年5月、二度目の訪問のチャンスを得た。

メキシコシティから空路約3時間でキューバの首都ハバナに到着。まずは入国審査。審査官は軍人で女性もいる。入国許可がおりると前方のドアが解錠される仕組み。人ひとりがやっと通れる大きさで、解錠の音を待ち自分で開けて通過する。緊張のうちに無事入国許可。しかし通過後さらに手荷物検査とボディチ

ェックを受けた。その後両替。ドル、ユーロはもちろん、中国元、韓国ウォン、さらに日本円でも可能で、現地通貨クックに両替。市内のレストランにて食事。飲み物はモヒートというカクテルが一般的で、料理は魚介、肉料理とメニューは豊富だった。

滞在2日目、ホテルの広い中庭に出ると何やら地下に横穴を発見。降りて行くと数枚の写真が展示されており、老人が説明してくれた。私のスペイン語理解力は極めて低いが、それでも50年程前アメリカから攻撃を受けた時の写真や資料であることがわかった。さらに老人は横穴の内部を案内してくれた。後に付いていくと狭い横穴はかなりの長さで、所々地上への穴があり「ここから空や海に向けて応戦したんだ」と説明してくれる。そこが地下要塞であることがやっと判明。このホテルがかつては軍の重要施設であったことも知った。その後、街を散策。公園のベンチに座っていると初老の男性が話しかけてきた。日本人だと言うと、日本のサムライ映画は好きだと言いチャンバラの真似をしてくれた。



ホテル中庭の横穴

滞在3日目、国内線でリゾート地・カヨラルゴへ。飛行機はかつての軍用機で窓が左右3か所ずつしかなく、40人乗り自由席。到着後、クルーザーでのツアーに向かったが、出発前にハプニングが。同行のキューバ人ガイドは乗船できないという。国外逃亡を阻止するルールらしい。美しいカリブのリゾート地で社会主義国家の厳しい現実と直面した。キューバ人用のツアーもあるとのことで、彼は別行動となったが、我々の心配をよそに空港で待ち合わせたガイドは「楽しかった！」と喜んでいました。

二度目の訪問でも結局、疑問を解き明かすことはできなかった。これは来年もまた行かねば！

アスタ・ルエゴ (また今度) キューバ!



カヨラルゴの砂浜



かつての軍用機

■きょうは、外国人会員がボランティア

にほんごの会くれよん (目黒区)

石原 弘子

今年から、F会員(外国人会員)のやりたいことを応援するというプロジェクトを、日本語の学習活動のひとつとして始めました。参加希望のF会員(台湾人と中国人の3人)が中心になって、企画し実行します。話し合いの結果、彼女たちの「やりたいこと」は、①中国語を教える、②料理を教える、③外国人が困る日本での冠婚葬祭について、日本人はどうしているのか調査をし、その結果を外国人に伝える、の3点となりました。

①は5回シリーズで、1回目が7月12日の昼休みにありました。チームの3人と飛び入り参加の中国語圏の人たち10人が、あいさつと数字をJ会員(日本人会員)26人に教えてくれました。彼らのいきいきとし

た表情、自信たっぷりの態度に私たちは圧倒され、感動すら覚えました。そして、私たちは分からない言葉を聞き、まねているつもりなのに、違うと言われ、何度も言いなおして言えるようになるという経験をしました。2回目は日中の食事文化の違いを話してくれます。自分がやりたいという学習は、積極的に調べ、辞書を引き、進んで原稿を作るので学習効果が高く、通常の活動の反省材料になっています。

当会は、毎週木曜日午前と午後の日本語学習活動、日本文化を紹介する活動、ボランティア研修活動、就園前の子どもをもつ親への日本語学習活動などをおこなっています。そのほかに、7月末に高校生とF会員の交流事業、年に20回程度、図書館や小学校でF会員によるお

国紹介、月に2回、中国帰国者の方がたとの活動などもしています。

これらの大きな目的は地域の多文化共生に資することです。教室内では、J会員はF会員と協働して学習活動を作り出し、F会員が積極的に地域活動に参加できるように支援することが、ボランティア日本語教室の役割であると考えています。



●にほんごくれよん <http://www006.upp.so-net.ne.jp/crayons/>

会員団体紹介

Nice to Meet You



西武新宿線沿線の花小金井南公民館で活動しています。毎年行なわれる公民館まつりでは「外国人によるスピーチ」に4,5人の学習者が出場します。今年は特に、短期滞在者の中国人男性が「たいゆう帯魚」(太刀魚)をテーマにユーモア、ジェスチャーたっぷりのたのしいスピーチをしました。

nice to meet you

■私たちの会の課題は……

小平たのしい日本語の会 (小平市)

伊坂 万里

学習方法は、学習者が持参したテキストを使用したり、ボランティア自作の「ひらがな練習用紙」を使いバランス良く字を書く練習をしたり、ごく日常的な話の中からことばを覚えてもらったりと、担当者はそれぞれに工夫を凝らしています。

学習時間中はほとんど1対1での関わりになってしまうので、ティータイムはたくさんの人と話すチャンスです。食べ物の話や地域で行なわれるイベント情報や体験談で話が弾み、なかなか席に戻らないこともあります。でも、これをきっかけに、後半は部屋が活気づくような気がします。

今、私たちの会の課題は、「学習者の減少」です。2年ぐらい前から日本のIT企業に勤めていた学習者が、働ける場所が少

なくなり帰国してしまったのか、ひとりも来なくなりました。留学生も大学や学生寮が近くに少ないせいかあまりいません。

どうしたら、学習者がたくさん来てくれるのか!

まず、1番目の対策として、市内のイベントでチラシを配布してもらいました。

2番目は、市内にある日本語ボランティアの会同士が交流を持ち、学習者に他の会のことを紹介し合うこと。そして、初めての試みとして、10月に合同で「日本語ボランティア研修講座」をひらく企画をたてています。

みなさま! 何かいいアイデアは、ありませんか?

学習者の声

感謝をこめて

邱 慎 / 台湾
 ビバ日本語教室 白金台 (港区)

主人の仕事で今度は4回目日本の土を踏みました。育児と介護から開放されましたが、更年期に差し掛かったせいか落ち込んでいるときもありました。その中、友人の紹介で2年前からビバ日本語教室に通い始めました。

S先生のお付き合いでほぼ無料でお茶会を堪能することができました。一期一会の精神が分かるような気がしました。M先生にお家まで招待されて雛人形の節句を体験しました。お母様は着物を着付けてくださり、いい思い出になりました。I先生の課外授業で湯島天神へ菊人形を見学に行ってきました。その帰りに上野近くの老舗を案内してくださり、ほんの少しでも日本の庶民生活を味わいました。MR先生は私の好奇心に応え、いつも熱心にいろいろと調べてくださいました。日本語の勉強ばかりでなく、仲間との情報交換、日本文化を体験しながら充実した日々を送っています。この場をお借りして、ビバ日本語教室の先生方にお礼を申し上げます。

恩返しのお気持ちとしてH先生のお勧めで、

1年半前から近くにある「白金の森」で月2回ボランティア活動しております。歌の集いのアシスタントとして、年配の方と歌を歌ったりお話し相手になったりしています。また、習字クラブのお手伝いをしながら自分はまだ人に役立てるかなあとと思います。確かに情けは人のためならず、ボランティア活動の後、仲間たちとの交流も私にとって楽しくて珍しい人生の勉強になりました。

定年を控えている主人の夢は日本のよさを台湾人に紹介したいようです。また、日本生まれで今日本会社に勤めている娘は台湾のよさを日本人に知ってもらいたいと常に言っています。

親子の夢を叶えるように応援しながら私も、もっと語学を生かし、ささやかでも感謝をこめてボランティア活動を続けたいと思います。



ラベンダーの畑で

ボランティアの声

吉本 恭子
 IAF日本語教室 (港区)

一期一会の気持ちを大切に

IAF日本語教室は毎週水曜日の夜、港区男女平等参画センターでレベル別のグループ学習をしています。私がボランティアとして参加してから約10年、企業や大学、大使館等も近所に多い東京都港区という土地柄から、様々な国の学習者と勉強を続けてきました。学習者・ボランティア共に働き盛りの社会人がほとんどです。日本企業で働く方、大学や企業へ留学やインターンで来日している方、大使館や各国企業に赴任されている方等、忙しい合間をぬって日本語学習に時間を割こうという学習者の意欲に感動を覚えるのと同時に、彼らがいかに楽しく学習を継続



していきけるかという課題に取り組む日々です。

IAFは何を表していますか? とよく聞かれます。International Awareness on Fridaysの略で「金曜日」に国際意識を高めよう!とスタートした会ですが、金曜の夜の出席率が悪く間もなく水曜日に変更したそうで、現在も教室名称はそのままで続けています。「水曜日は日本語」という意識を持って通い続けてくれる熱心な学習者がいる一方、仕事や家族の都合ですぐに来られなくなる方も残念ながら多くいます。特に東日本大震災直後はほとんどの方が帰国し、教室は開店休業状態がしばらく続きました。最近になっても学習者

数、継続日数ともに震災前には戻っていない状態です。

しかしながら今まで同様、一期一会の気持ちを大切に、今後も楽しく日本語教室を継続していきたいと思っています。

◎「わかる日本語」研究会の報告冊子が出来ました。

Network Newsで「わかる日本語」研究会の活動状況を紹介してきました。

行政・自治体から外国人向けの情報は多言語で発信されていますが限界があります。関連した日本語文は多くの外国人には分かり難い文です。

“日本語を母語としない人たちにとって、わかりやすい日本語文にリライトする”検討作業を約2年(20数回)にわたり行ってきました。日本語教育の専門家、地域の日本語ボランティア、TNVNスタッフで研究会を始め、途中から区自治体の窓口担当者にも参加いただきました。

リライト検討作業には日本語原文に、東京都

国際交流委員会のホームページ・外国人のための生活ガイドの一部「転ばぬ先の知恵」「緊急災害時の対応」を使用させて頂きました。

冊子は、I.はじめに II.取り組み経緯 III.リライトの目安 IV.転ばぬ先の知恵 V.緊急災害時の対応 VI.参考資料 VII.参加メンバーの感想 で構成されています。(A4横サイズ、40頁)

この冊子を是非手に取って見て下さい。

日本語ボランティア活動の中での活用や日本語能力があまり十分ではない外国人に向けて発信する文章作成等の参考にして頂けたらと願っています。



「やばい」

「先生、やばいと言っていいですか。」ちょっと即答のしにくい質問です。「どんな時ですか。」「台風がきて、風がつよい。雨がすごい。わたしはやばい。」たしかに、強い、すごい、やばいは語呂がいいですね。

でも、私にはちょっと違和感があり、こんなふうにノリのよい使い方ができません。友達同士の軽い会話でも「やばい」と言うと気恥すかしくなります。せいぜい孫相手に若ぶる時ぐら

いでしょうか。

20年以上日本で暮らしている女性も「やばい」が反射的にできます。日本人にかこまれて、臆することなくどンドン話し、絶妙なタイミングで「やばい」をいれます。豊かな表情に「やばい」はよく似合います。

「やばい」は私の知らないうちに、「もったいない」や「ともだち」のように広く世界で使われる日本語になっているのかもしれない。

(H.Y.)

column

首都直下地震の不安

昨年の大地震の際は古い我が家は倒れるのではないかと心配であったが、幸い外壁にひびが入った程度で胸をなでおろした。その後東京で場所によっては震度7もある地震が4年以内に発生する確率が70%という情報も流れたが、我が家が倒れることはないだろうと思い、それほど心配していなかった。

ところが先日不安になるできごとがあった。町田市が木造の家の耐震化の応援をしていて、その第1段階の簡易診断を受けた時のことである。簡易診断は市が全額負担し、目視による簡易な診断をした。震度7に耐える強さが1とする場合、我が家は0.43という数字が出た。即座に倒壊する数字である。我が家は80年に新築したが、81年の法改正以前に作られた建物は弱いようである。

市の助成は第4段階の耐震工事まで続くが、第2段階の精密診断から自己負担が始まる。耐震工事は概算250万円で市は50万円を助成する。

耐震工事をするかは家計に余裕がないため未定であるが、他の人のことが心配になってきた。「ボランティアや学習者が住んでいる家、日本語学習している家が古い家ではないか、81年以前にできた家は弱いかもしいというのを知っているか、地震の際の避難のことなど考えていないのではないか」といったことである。

「首都直下地震の確率はもっと低い」といった情報もその後流れたが、いつか震度7の地震があるかもしれないと考えてほしい。

(E.T.)



TNVN 東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

第1、第3 金曜日／午後2時～4時

第2、第4 金曜日／午後2時～6時

第5 金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線—出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

●FAX：03-3235-0050

●E-mail：webadmin@tnvn.jp

●URL：http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数(2012年5月11日現在)

正会員：84団体、団体協力会員：2団体

個人協力会員：21名、賛助会員：4団体

●編集／大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、

梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

●レイアウト／鶴田 環恵